

3 年 団

学年主任： 岡田 道有

(1) 今年度の目標

- ① 3年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・ 自主、自律的な生活を実践し、協調的態度を育成する。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。
 - ・ 進路を明確にし、目標実現に向けて効果的に粘り強く学習する。
- ③ 豊かな人間性を涵養する。
 - ・ 社会生活における役割や自己責任を自覚し、豊かな人間性を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 3年生であることを自覚し、自律的で健康な生活が送れるよう支援する。

人間関係や勉強・進路など生徒の悩みや不安を注意深く察知し、心身ともに健康な学校生活を送ることができるよう、生徒との面談や保護者との連携、および校内連携を適切に図りつつ支援する。
- ② 主体的に進路目標が実現できることを支援する。
 - ・ コロナ禍による受験情報の不透明さによる不安を払拭するため、進路HRなどを充実させ、部活動引退後の気持ちの切り替えと受験態勢の構築が速やかに行えるよう、面談等を通じて指導する。
 - ・ 「進路だより」を効果的に発行する。また、受験情報誌やインターネットなどを利用して、進路に関する情報を充実させる。三者懇談や面談などを通して、進路を明確にさせる。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
 - ・ 受験という価値観に一元化されることなく、学ぶことの楽しさを追究するとともに、社会の動きを知り、周囲の人々の気持ちに配慮できるような広い視野を持たせる。

(3) 成 果

- ① 3年生であることを自覚し、自律的で健康な生活が送れるよう支援する。

欠席の場合などに保護者への連絡を密に取ることや、学校生活アンケートを受けての対応、スクールカウンセラーも含めた校内連携、および日頃の観察・声かけ・面談等により、生徒の悩みなど心身の健康面に関して適切な対応ができた。
- ② 主体的に進路目標が実現できることを支援する。
 - ・ 進路HRを通して、生徒が進路の情報を収集し、主体的に各自の進路について考え志望校を決めることができた。「進路だより(年4回発行)」や「学年団だより」(年3回発行)も受験勉強への取り組みや心構え等について情報を提供することができ、効果的だった。
 - ・ 5月の中間試験発表以降学校でも自習室を設け、通常の下校時刻の後も19時前まで残って勉強ができるように環境を整え、生徒の受験勉強を支援した。また、2月の家庭学習中も生徒がそれまで同様の学習スタイルで勉強できるようにHR教室を開放するとともに、空調の入った自習室や各教科の先生方が添削指導できる教室を設定した。利用者も多く、質問や個別試験の添削指導を受けながら勉強している。
 - ・ 1学期末、2学期末保護者懇談に加え、センター試験後の懇談会を実施し、進路について三者が十分話し合うことができた。特に、共通テスト後の懇談会は、国公立大学出願校の最終決定や私立大学出願の最終確認という大事な懇談ということもあり、該当する生徒・保護者が全員出席した。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
 - ・ 縮小された学校行事にも、積極的に取り組ませた。クラスの団結が強まり、友好的な人間関係を築くのに役だった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

学習や成績に対する不安から心身に不調をきたす生徒が増えた。個々の生徒の状況をよく観察し、保護者との連絡を密に校内での連携を図りながら、早めの対応が重要である。